

**設問1 (1ポイント) b**

- a) 不正解：テスト分析は、シーケンシャルライフサイクルモデルの要求仕様の作成中に、より早く開始しなければなりません。
  - b) 正しい：これは、テスト活動をシーケンシャルライフサイクルモデルフェーズにどのように合わせるべきかについての正しいオプションです。
  - c) 不正解：シラバスに記載されているように、テスト活動の調整方法には多くの違いがあります。
  - d) 不正解：シラバスに記載されているように、アナリストはアジャイルプロジェクトの最初から関与する必要があります。
- 

**設問2 (1ポイント) c**

- a) 不正解：これはTTAの責任です。
  - b) 誤り：これはTTAの責任です。
  - c) シラバスに従っています
  - d) 不正確：これはTTAの責任です。
- 

**設問3 (2ポイント) d**

- a) 不正解：このオプションはリスク軽減のためのテスト条件を無視し、テストケースに直接進みます。テスト条件の目的については明確ではありません。
  - b) 不正解：このオプションはユースストーリーの分析を無視し、希望する報道についての言及を省略する。
  - c) 不正解：このオプションはテスト条件をすべて無視し、テストケースに直接進みます。
  - d) 正しい：ユースストーリーのテスト条件に追加されたリスク軽減を伴う。
- 

**設問4 (1ポイント) b**

- a) 不正解：はい、これは正当な理由の1つです。つまり、テストケースがビジネスプロセスとルールに一致することを確認するためです。
- b) 正解：テストケースはテスト方針に準拠するように作成されるべきであり、その逆ではありません。
- c) 不正解：そうです、これは別の正当な理由です。つまり、他のテスト担当者がテストケースを理解して実行できるはずです。
- e) 不正解：はい、開発者は誤解を捉え、テストの最適化に参加するためにも、テスト担当者と同じ要件を理解している必要があります。

#### 設問5 (2ポイント) a,d

- a) 正しい：これはプロジェクトHIPPOSにとって最もお勧めです。チームはテストおよびアジャイル開発の経験があり、アプリケーションは論理レベルでの経験ベースのテストが意味をなすオンラインマーケティングアプリケーションです。
- b) 不正解：シナリオには、プロジェクトIQのトレーサビリティに対する要求があると記載されているため、これはお勧めできません。また、テスターはテストの経験があまりないため、論理レベルは良くありません。
- c) 不正解：お勧めできません。プロジェクトHIPPOSに関する同じ詳細レベルの文書化を支持する議論はない。それは彼らが構築しているマーケティングアプリケーションです。
- d) 正解：トレーサビリティに対する要求があり、テスト担当者にはそれほど多くのテスト経験がないため、これはお勧めです。
- e) 不正解：プロジェクトHIPPOSに関する同じ詳細レベルの文書化を裏付ける議論はない。それは彼らが構築しているマーケティングアプリケーションです。
- 

#### 設問6 (1ポイント) c

- a) 誤り：テストケースを作成することはテストデザインの一部です。
- b) 誤り：テストケースは実行前にレビューされ承認されるべきであり、そうでなければプロセスはスケジュールを助ける可能性が低い。
- c) 正しい：この活動の間に完了されるべきタスクの例としてシラバスによると述べられた目的を達成する。
- d) 不正確：テストの実行はテスト実行の一部です。
- 

#### 設問7 (2ポイント) d

- a) 不正解：このオプションはステップ2と4を再チェックしますが、テストが正しいことを確認せずにステップ5のインシデントレポートを作成します。
- b) 不正解：これは、テスト文書をチェックしたり、ステップ4テストの繰り返しの結果を待たずに、ステップ4と5のインシデントレポートを発生させます。
- c) 不正解：これは、ステップ4と5だけでなく「誤検知」ステップのインシデントレポートを追加します。テスト文書を確認しません。
- d) 正解：インシデントレポートを作成する前に、すべてのケースでテストが正しかったことを確認する。
- 

#### 設問8 (1ポイント) b

- a) 不正解：テストケースの実行ステータスは、どの欠陥を修正するかの順序に影響を与える可能性があります、欠陥の重大度など、より重要な他の項目があります。
- b) 正解：シラバスから：「テストプロセスの観点から見ると、テスト進捗の監視には、報告要件をサポートするための適切な情報の収集を確実にすることが必要です。これには、完成への進捗状況の測定も含まれます。
- c) 不正確：テストケースのステータス情報はステータスと関係があるだけです。テストケースの適用範囲の検証は早めに行ってください。
- d) 不正解：テストケース実行ステータス情報は、個人の効率を評価するために使用されるべきではありません。チームメンバーがテストケースをどの程度迅速に処理しているかを把握できますが、ステータスだけでは、チームメンバーが時間を効率的に使用しているかどうかをマネージャが判断することはできません。

**設問9 (1ポイント) d**

- a) 誤り：この項目は試験要約報告書の一部である。
  - b) 誤り：この項目は試験要約報告書の一部である。
  - c) 誤り：この項目は試験要約報告書の一部である。
  - d) 正解：ソフトウェアを保守しサポートする予定の人々にとっては、延期された欠陥だけが関心を引くので、これは終了時に提供されるべきリストです。
- 

**設問10 (1ポイント) d**

- a) 不正解：テスト監視と制御の観点から見ると、個々の開発者のパフォーマンスは範囲外です。
  - b) 不正解：それは一方的であり、テスターの管理を超え、他の要因、テストケースの合格数、不合格の影響を受けます。
  - c) 不正解：両方のディメンションが合格/不合格/未実行の進捗状況を正しく把握するには重要です。
  - d) 正しい：これらはシラバスに記載されている5つの次元のうちの4つです。
- 

**設問11 (1ポイント) d**

- a) 不正解：会議のオプションのいずれかが機能する可能性があります、それはタイムゾーンと可用性によって異なります。欠陥追跡システムは常に機能します。
  - b) 不正解：もしあるとしたら、新しいソフトウェアを頻繁にロードすると全員を同じバージョンにしてブロックを解除するのが難しくなるため、これはさらに悪化します。
  - c) 不正解：いずれかの会議オプションが機能する可能性があります、タイムゾーンと可用性によって異なります。欠陥追跡システムは常に機能します。
  - d) 正解：欠陥追跡システムの正確な情報により、誰でもより少ないフォローアップで効率的に作業することができます。どの会議オプションも機能する可能性があります、タイムゾーンと空き状況によって異なります。欠陥追跡システムは常に機能します。
- 

**設問12 (1ポイント) c**

- a) 不正解：良い提案ですが、リスクが低いと優先順位は低くなります。
  - b) 不正解：これは良い提案ですが、正しい答えであると同時にリスクも軽減しません。それは正解と同様にすることができましたが最も高い優先順位としてこれが正解を無効にするべきではありません。
  - c) 正しいです。
  - d) 不正解：良い提案ですが、優先順位は低くなります。
- 

**設問13 (1ポイント) a**

- a) 正しい：原因結果グラフは、結果を引き起こす条件の組み合わせ、結果を除外する、結果を引き起こすために真でなければならない複数の条件、および特定の結果を引き起こすために真となり得る代替条件を示します。したがって、このオプションは正しくありません。
- b) 不正解：これは本当です。
- c) 不正解：これは本当です。
- d) 不正解：これは本当です。

#### 設問14 (2ポイント) c

- a) 不正解：正解の正当性を見てください。
- b) 不正解：正解の正当性を確認してください。
- c) 正解：パラメータ1)と2)：名譽の誓約書に署名して詳細な評価を記入するために10%の減額を取得し、どちらにも2つのパーティションがあります。パラメータ3)喫煙パラメータとBMIパラメータにはそれぞれ3つのパーティションがあるため、3つのテストケースですべてのパーティションをヒットすることができます。最高保険料について：名譽の誓約に署名せず、喫煙者であり、BMIが30以上である詳細な評価を記入していない従業員は、全標準保険料+追加\$ 75を支払う必要があります。一方、詳細な評価に記入し、非喫煙者で、27,5未満の低いBMIを持つ従業員は、控除を受けます。 $40 + 25 + 50 + 50 = 165$ で、235ドルが残ります。

パラメータ 1:2クラス) 喫煙者 Y/N

パラメータ 2:2クラス) 誓約 する/しない

パラメータ 3:3クラス) BMI 27.5以下/30以下/30よりも大きい

パラメータ 4?:3クラス) 禁煙クラス 必要ない/参加する/参加しない

- d) 不正解：正解の正当性を参照してください。

---

#### 設問15 (3ポイント) c,e

- a) 不正解：正解については説明を参照。
- b) 不正解：正解については説明を参照。
- c) 正解：プレミアムに参加することを受け入れない= 500、参加することを受け入れたが何らかの理由で現れなかった=  $(500 - 25) = 475$ 。  
1、2、3、または4つのテストを任意に組み合わせて参加すると、結果が異なる4つのテストケースが追加されます。添付の決定表を参照してください。
- d) 不正解：正解については説明を参照。
- e) 正解：4つのテストに参加することで、はいといえの可能性をカバーするために、 $+ 2 * 2 * 2 * 2$ の参加をまったく受け入れないという1テストケース。  
スプレッドシートにもデシジョンテーブル。（参加を受け入れない人たちのためにさらに15回テストを行うことは意味がありません。  
どのテストにも参加しなかったのと同じマイナスの結果が出たので、制限のために行われていません。この制限が導入されていない場合は、結果は32テストケースになります）。

**設問16（2ポイント） b,e**

- a) 不正解：スイッチ0の4つの遷移。正解は下記を参照。  
b) 正しい：スイッチ0、スイッチ0、アクティブから4への遷移は4つあります。それ自体をアクティブにし、受け入れ、クローズ、および係争中です。  
c) 不正解：スイッチ0に対して4つの遷移。正解は下記を参照。  
d) 不正解：11つが1スイッチ遷移になる。正解は下記を参照。  
e) 正しい：Activatedから1スイッチ遷移には11つ。9つの有効な遷移があります。

- 1.Activated→Activated→Activated
- 2.Activated→Activated→Closed
- 3.Activated→Activated→Disputed
- 4.Activated→Activated→Accepted
- 5.Activated→Closed→Activated
- 6.Activated→Closed→Disputed ×
- 7.Activated→Closed→Removed ×
- 8.Activated→Disputed→Activated
- 9.Activated→Disputed→Closed
- 10.Activated→Accepted→Activated
11. Activated→Accepted→Closed

（注）Activated→Closed→Acceptedの場合、移行は許可されません。

- f) 不正解：スイッチ1には11が有効です。正解はeを参照してください
- 

**設問17（2ポイント） a**

- a) 正しい：これは次の表からわかります。  
b) 不正解：これは、パラメータ数に乗数を掛けた結果です。  
選択肢（3 \* 4）  
c) 不正解：これは4の4乗の結果です。  
d) 不正解：これは1賢明な報道です。
- 

**設問18（2ポイント） c**

- a) 不正解：これは、ブランチ内のオプションの最小数です（バランスを表示 - 画面上または紙上）。  
b) 不正解：これは、すべてのオプションをまとめて数えたときに得られる数字です（6 + 4 + 2）。  
c) 正解：1ワイズカバレッジでは、各パラメータの各値は少なくとも1回含まれている必要があります。値の最大数は、パラメータ「amount」にあります。  
d) 不正解：これは支店の数（金額、支払い方法、残高の表示）です。
-

#### 設問19 (2ポイント) d

- a) 不正解：これは、メインストリーム用のテストケースと例外用のテストケースが1つある状況です。
  - b) 不正解：1がメインストリームの最小値ですが、選択肢も例外も考慮に入れていません。
  - c) 不正解：数値は、別々のユースケースを持つオプションのテストケースを正しい数に追加することによって計算されます。
  - d) 正解：正解数には、メインストリーム用のテストケースと、4つのE1と1つのE2が含まれるすべての例外パスがあります。
- 

#### 設問20 (1ポイント) c

- a) 不正解：ユーザーストーリーは、一部または要件の文書であり、システムの開発前または開発時に同時に作成されます。
  - b) 不正解：ユーザーストーリーは、要件とシステムに期待される内容を説明するものであり、それらの期待に関連する特定のアクティビティではありません。
  - c) 正解：シラバスの3.2.8節にあるユーザーストーリーの定義に従って。
  - d) 不正解：ユーザーストーリーはユースケースに関連していません。また、受け入れテストでしか使用されていませんが、すべてのテストレベルで使用できます
- 

#### 設問21 (1ポイント) c

- a) 不正解：テスト1は重みと容量の下限にあります。テスト2は両方の上限にあります。テスト3は両方の境界の外側にあり、テスト4は両方の境界の外側にあります。外部テストの重複があります。
  - b) 誤り：テスト1は両方の境界の内側にあり、テスト2は重みの下限にあり、容量の上限はテストの両方の境界の内側にあります。テスト4は両方の境界の外側にあります。内部テストの重複があります。
  - c) 正しい：ドメイン内のテスト1、重みの境界上のテスト2、容量の境界上のテスト3、および両方の境界外のテスト4。
  - e) 不正解：テスト1は両方の境界の内側にあり、テスト2は両方の境界の外側にあり、テスト3は両方の境界の内側にあり、テスト4は両方の境界の上部にあります。セットには容量境界でテストがありません。
- 

#### 設問22 (2ポイント) b,e

- a) 不正解：システムは状態ベースであるかもしれませんが、シナリオにはこれに関する情報がなく、既存のシステムから構築するというアプローチは、状態変化の定義が最小限である可能性を示唆しています。
- b) 正しい：分類木は入力の組み合わせを効果的に管理する機会を提供する。
- c) 不正確：入力のいくつかはパーティション（例えば色）にある可能性が高いが、それらは代替案を識別するので順序付けられたパーティションになる可能性は低いので、境界値分析は適切ではない。
- d) 不正確：ユーザーストーリーテストはありそうな開発アプローチには適切であるが、入力の詳細な組み合わせよりも全体的な機能フローに基づいているだろう。
- e) 正解：入力は結合されたパーティション（オプション）に存在するため、分類ツリーと等価パーティション分割の組み合わせは理想的な選択です。

### 設問23 (1ポイント) a

- a) 正解：欠陥ベースの技法は、テスト対象のソフトウェアでこれらの特定のタイプの欠陥を見つけるために、テストケースのソースとしてさまざまなタイプのソフトウェアおよびプログラムについて識別された典型的な欠陥を使用する。
  - b) 不正解：欠陥ベースの手法は、コンポーネントテストではなく、主にシステムテストで使用されています。
  - c) 不正解：テストケースは、システムの文書を分析することによってではなく、テスト対象システムに典型的な欠陥を分析することによって作成されます。
  - e) 不正解：仕様はテストケースの根拠ではないため、欠陥ベースのテストは仕様ベースのテストのサブカテゴリではありません。
- 

### 設問24 (1ポイント) c,e

- a) 不正解：これは機能項目であり、ユーザーインターフェースのチェックリストに載ってはいけません。
  - b) 不正解：負荷テストはユーザビリティテストの一部ではありません。
  - c) 正解：タブ順序は、ユーザーインターフェースのチェックリストに表示されるはずの項目です。
  - d) 不正解：これはセキュリティ項目であり、ユーザーインターフェースのチェックリストに載ってはいけません。
  - e) 正解：有効な日付フィールドをチェックするルールは、ユーザーインターフェースのチェックリストに載っていなければなりません。
- 

### 設問25 (1ポイント) a

- a) 正解：テスト担当者が十分な経験とテスト対象システムに関する情報を持っている場合は、経験ベースの技法をより正式な技法の選択肢として使用できます。通常、これは時間的なプレッシャーがある場合、またはドキュメントの品質が低い場合、または使用可能なドキュメントがない場合に発生する可能性があります。
- b) 不正解：正式なテクニックを使用できない場合は、経験ベースのテクニックを使用できますが、それが唯一の状況ではありません。可能な限り、正式なテストを補完するために使用する必要があります。
- c) 不正解：経験はテスターがどこをもっとテストするかを決めるのを助けますが、経験ベースのテクニックは非公式でカバレッジ測定がそうではないので必ずしもテストカバレッジを改善しません  
これらのテクニックを使用しながら常に可能です。
- e) 不正解：チェックリストを使用することで、経験ベースのテストをより体系的かつ効率的に行うことができます。  
仕様ベースのテクニックを使用しても、経験ベースのテクニックを使用しても置き換えられません。これは部分的には正しいですが、設問はBESTオプションを求めているため、これは正しい答えではありません。

#### 設問26 (2ポイント) a,d,f

- a) 正しい：結果を記録する方法としてシラバスごとに。
  - b) 不正解：チャーターごとのセッションの合否ステータスも記録する必要があります。
  - c) 不正解：テストケースは通常、探索的セッションに対して定義されていません。
  - d) 正解：シラバスごとに、問題が定義されていないため、何をテストするかを理解するためにこの知識が必要になります。
  - d) 不正確：これは結果を失い、全体的な追跡ができなくなる可能性があります。
  - e) 不正確：これは結果を失い、全体的な追跡ができなくなる可能性があります。
  - f) 不正解：テストケースは通常、探索的セッションに対して定義されていません。
- 

#### 設問27 (2ポイント) b

- a) 不正解：探索的テストはまったく言及されていません。それはの一部であるべきですこのアジャイルチームで使用されているテクニック。1つのEPとBVAがない意思決定表がよりありそうな間、言及された。さらにセキュリティテストのための仕様ベースの手法がno 4で提案されています攻撃ベースまたはエラーベースの手法が適している場合シナリオに基づきます。
- b) 正解：これは多くのテクニックを組み合わせた最も可能性の高い提案です。それは探索的テストと欠陥ベースのテストの両方に言及しています、後者のうち「チームは...部分的に彼らの過去の回顧の中で、一般的な欠陥のチェックリストを作成しました。組織はこの種類の欠陥を経験しているべきであるアプリケーションの種類が展示されます。さらなる決定表テストが提案されているシナリオ1に書かれているものと一致しません。1構成テストはno 3のシナリオでサポートされています。セキュリティテストのためのチェックリストベースの攻撃 (4)
- c) 不正解：決定テストと分岐テストが間違っているため、主に間違っています。仕様ベースの手法ではありませんが、言及している可能性もあります。シナリオが明示的にチームは一般的な欠陥のリストを作成しました。
- g) 不正解：仕様ベースのテストが以下に当てはまる可能性は低い。シナリオの1~4では、さらに1をサポートするものではありません。状態遷移テストを使用するのではなく、意思決定表テストを使用する必要があります。言及された



---

**設問28（1ポイント）b,d,fのうち2つ**

- a) 正しくない
- b) 正しい
- c) 正しくない
- d) 正しい
- e) 正しくない
- f) 正しい
- g) 正しくない
- h) 正しくない

精度、相互運用性、およびコンプライアンスは、特別な注意を払うためにシナリオから検出する必要がある領域です。 これらをテストするためのこのグループの最も適したテクニックは、デシジョンテーブル、ユースケース、および状態遷移テストです。

---

**設問29（1ポイント）d**

- a) 不正解：これは一部のWebサイトとの相互運用性の問題です。
- b) 不正解：これは特定のOSとの相互運用性の問題です。
- c) 不正解：これは一部のブラウザとの相互運用性の問題です。
- d) 正解：これはユーザビリティの問題であり、相互運用性の問題ではありません。

---

**設問30（1ポイント）d,e**

- a) 不正解：これは最初に統合テスト中にテストされる可能性があります。
- b) 不正解：受け入れテストの前にコンポーネントの使いやすさをテストする必要があるため。
- c) 不正解：コンポーネントのテスト中にすべてのブラウザでコンポーネントをテストすることをお勧めします。
- d) 正解：主な機能がまだ機能することのテストは、コンポーネントテストレベルでテストされるべきです。
- e) 正しい：コンポーネントテストの間に新しい機能性が最初にテストされなければならない。

---

**設問31（3ポイント）a**

- a) 正しい：ユーザビリティは要件に対して検証され、実際のユーザによって検証されるべきです。
  - b) 不正解：検証はリリース前に実際のユーザーによって行われるべきです。
  - c) 不正解：総括的になる前に形式化が行われているべきであり、次に説明するテストは負荷テストであり、ユーザビリティテストではありません。
  - e) 不正解：既存の不適切な製品と比較しても、使いやすさを確認できません。 また、プロトタイプを開発する理由はありません - あなたは本物の製品を持っています。
- ⇒まず、用意されたテストドキュメントが正しいかを見るのがTAの責務。

---

**設問32（1ポイント）a,b**

- a) 正しい：シラバス（5.1）を参照。
  - b) 正しい：シラバス（5.1）を参照。
  - c) 誤り：システムテスト計画が作成されている段階では、コンポーネントの欠陥はまだ発見されていない。
  - d) 誤り：ユーザストーリーは、（アジャイル方法論において）実証可能な機能の小さな単位を表しています。これらはシステムテストのレビュー段階には関係なく、Vモデルプロジェクトでは作成されません。
  - d) 誤り：設計ドキュメントは読み取られますが、コンポーネントテストの設計レビューの段階でレビューするコードはそれほど多くありません。あったとしても、TAはおそらくそれを読んでいないでしょう（これはもっと正確にはTTAの仕事であろう）。
- 

**設問33（2ポイント） a,c**

- a) 正しい：ユースケースにはメインパスが1つだけ存在します。
  - b) 正しくない：ユースケースにユーザメッセージの記述がありません。
  - c) 正しい：メインパスはユースケースから定義できます。
  - d) 正しくない：ユースケースで定義されていない明らかな代替オプションがある。
  - e) 正しくない：ユースケースには、結果が明確ではないためテストできない部分があります。
- 

**設問34（2ポイント） b**

- a) 不正解：合格基準はありません。(チェックリスト2)
  - b) 正しい：この仕様には複数の要件があり、それらは個別に番号が付けられたりバージョン管理されたりすることはありません。ビジネス要件があり、提供されるユースケースはありません。
  - c) 不正解：トレーサビリティが欠けています。(チェックリスト6)
  - e) 不正解：合格基準はありません。(チェックリスト2)
- 

**設問35（1ポイント） d**

- a) 不正解：この反応は封じ込めの形のように思えますが、実際にはテストを任意に制限しています。
  - b) 不正解：この応答もまた、位相中心のテストの形式のように聞こえ、特定の手法は特定のフェーズで最適になるという誤った仮定をします。
  - c) 不正解：この応答は、欠陥が（ほぼ）得ることができるのと同じくらい高価になるまでテストを延期するという点で正しい応答の逆です。
  - d) 正解：欠陥追跡は、欠陥が導入された場所と除去された場所を識別できます。排除されない欠陥は故障を引き起こす可能性があり、またさらなる欠陥を生成する可能性があります。
- 

**設問36（1ポイント） a,d**

- a) 正しい
  - b) 不正解：すべての不具合報告に必要となります
  - c) 不正解：すべての不具合報告に必要となります
  - d) 正しい
  - e) 不正解：すべての不具合報告に必要となります
-

**設問37（1ポイント）c**

- a) 不正解：症状（ユーザーインターフェースの欠陥を識別するのに役立ちます）、未解決の欠陥（優先度ではない）、および原因の疑いがある（プロセス改善に役立ちます）を追跡します。
- b) 不正解：優先順位（受け入れ基準に直接関連していない）、欠陥が検出されたフェーズ（フェーズ封じ込めに関して導入されたフェーズよりも有用性が低い）、および原因の疑いがある（有用と思われる）プロセス改善のためのプロジェクトを推進する。
- c) 正解：重大度（受け入れ基準に直接関連する）によって未解決の欠陥をカウントするため、欠陥が導入された段階（これはプロジェクトのコストと時間を節約するための段階封じ込めの基礎です）、症状（ユーザーによる）界面欠陥が特にある懸念）。
- e) 不正解：欠陥がどのように発見されたか（プロセス改善には役立つが、このプロジェクトには直接関連しない）、総欠陥（いつでも未解決のものではなく）、および作業成果物を追跡する
- 

**設問38（1ポイント）c**

- a) 不正解：これは根本原因分析が発見する可能性があることのほんの一例です。
- b) 不正解：これは根本原因分析が行われる方法の一部です。
- c) 正しい：シラバス（6.5.1）。
- d) 不正解：これは根本原因分析の良い副産物かもしれませんが、それが重要である理由ではありません。
- 

**設問39（1ポイント）a**

- a) 正しい：これはクラシフィケーションツリーツールがすることです。
- b) 誤り：これはデシジョンテーブルのあいまいな説明です。間違いなくクラシフィケーションツリーではありません。
- c) 不正解：クラシフィケーションツリーは100%の適用範囲を保証するような表を生成しません。
- d) 不正解：これは記録/再生ツールまたはその他の種類のテスト生成ツールです。
- 

**設問40（1ポイント）c**

- a) 不正解：これはユーザビリティテストです。
- b) 不正解：手動テストはビジネスプロセスに対して書かれていない - コードはTAによって識別されたプロセスのためにTTAによって書かれている。
- c) 正解：シラバスに従って。
- d) 不正解：これはTTAの仕事です。
- 

**設問41（1ポイント）b**

- a) 不正解：問題は欠陥によるものではない可能性があるため、この時点では欠陥報告書の作成は時期尚早です。
- b) 正しいです。
- c) 不正解：TTAを呼び出す前にトラブルシューティングを行うべきです。
- d) 不正解：TAはおそらく自動テストのデータを変更することはできません。同じテストを手動で実行して、問題がオートメーションにあるのかテスト対象のコードにあるのかを判断することをお勧めします。

